

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 099	提案機関名 畜産技術センター企画指導部普及指導課
要望問題名 美味しさを加味した環境負荷低減型飼料の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 飼料中の蛋白質やリン等の成分は、要求量を超える栄養成分はふん尿として排出され、悪臭発生の一因となる。要求量以上にアミノ酸(蛋白質)、リンを含まないように環境負荷低減型配合飼料(子豚育成用配合飼料および肉豚肥育用配合飼料)の公正規格が、2013年6月に新設された。都市部に位置する本県の養豚経営での活用が期待されているが、環境負荷低減型配合飼料のようなアミノ酸やリンを低減した飼料が豚肉の美味しさにどのような影響を及ぼすかの報告はない。 そこで、畜産技術センター企画研究課でもアミノ酸やリンを低減した飼料が環境面での実用性を検証するとともに、うま味に影響を及ぼすアミノ酸を多く含んだ豚肉を生産するための総合的な検討をお願いする。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	神奈川県畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 要望にあります環境負荷低減型配合飼料の規格を満たした飼料は、既に愛知県が試験を実施しており、窒素、リンともに排出抑制ができることが報告しておりますが、肉質評価は行われておりません。 窒素低減、リン低減単独では、愛知県、山形県、秋田県で環境負荷物質低減に効果があると報告があり、神奈川県もアミノ酸添加低蛋白質、高繊維飼料でアンモニア揮散量が減少すると報告しておりますので、環境面では効果はあると考えられます。しかし肉質に関しては、蛋白質低減飼料で、秋田県や畜草研を中心としたグループが背脂肪厚、脂肪融点、枝肉格付の報告をしていますが、肉質全般の評価は行われておりません。 本県での技術実証としては、低コストな未利用資材等を活用した環境負荷低減は有効な技術であると考えられるため、飼料原料の特徴を見ながら、環境負荷低減型配合飼料の基準をみたした飼料で環境部門と協力しながら、発育、肉質と環境の総合的な検討を行っていきたいと考えます。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			